

---

男女共同参画に関する  
県民意識調査報告書  
(ダイジェスト版)

---

令和6年12月

長野県県民文化部  
人権・男女共同参画課

# 目 次

## ◆調査項目別結果

(1)	用語や制度の認知度について	(問 1~2)	.....	1
(2)	世の中の男女平等について	(問 3)	.....	3
(3)	固定的性別役割分担意識について	(問 4)	.....	5
(4)	地域活動参加状況について	(問 5)	.....	6
(5)	政策・方針決定への参画について	(問 6~8)	.....	8
(6)	ワーク・ライフ・バランスについて	(問 9~10)	.....	13
(7)	女性リーダー(管理職)について	(問 11)	.....	16
(8)	男女間の暴力への対策について	(問 12)	.....	18
(9)	男女共同参画社会の実現について	(問 13~14)	.....	19

【注1】本報告書のパーセント数字は小数点第二位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

【注2】他の調査結果との比較を行っている項目は、以下の調査の結果を用いている。

令和元年度調査 : 「令和元年度男女共同参画に関する県民意識調査」(長野県)

平成26年度調査 : 「平成26年度男女共同参画に関する県民意識調査」(長野県)

高校生調査 : 「令和6年度男女共同参画に関する高校生の意識調査」(長野県)

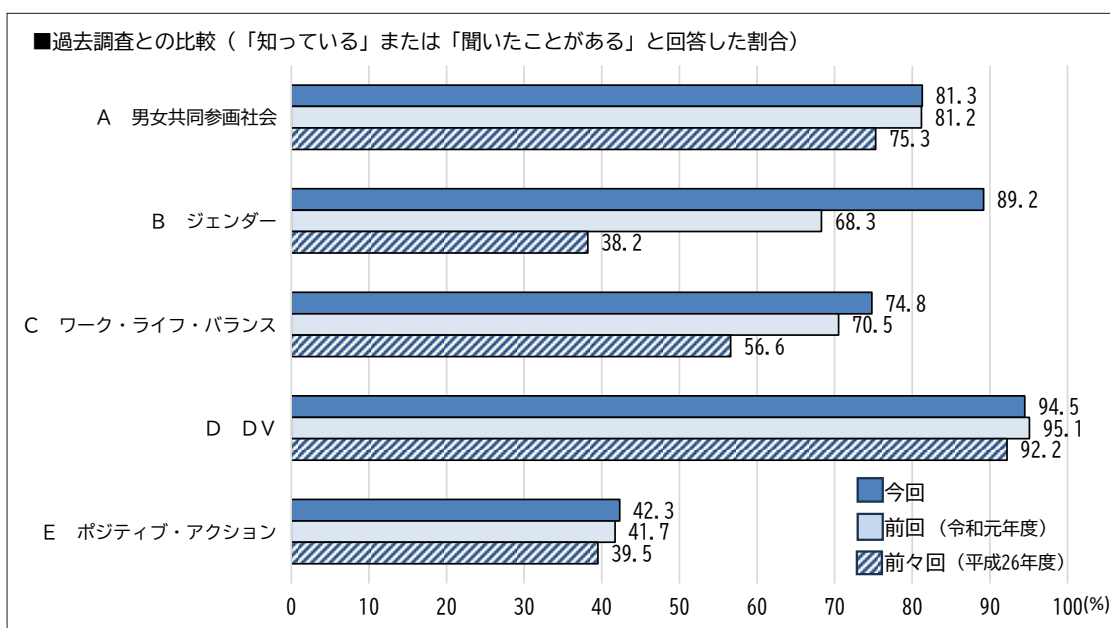
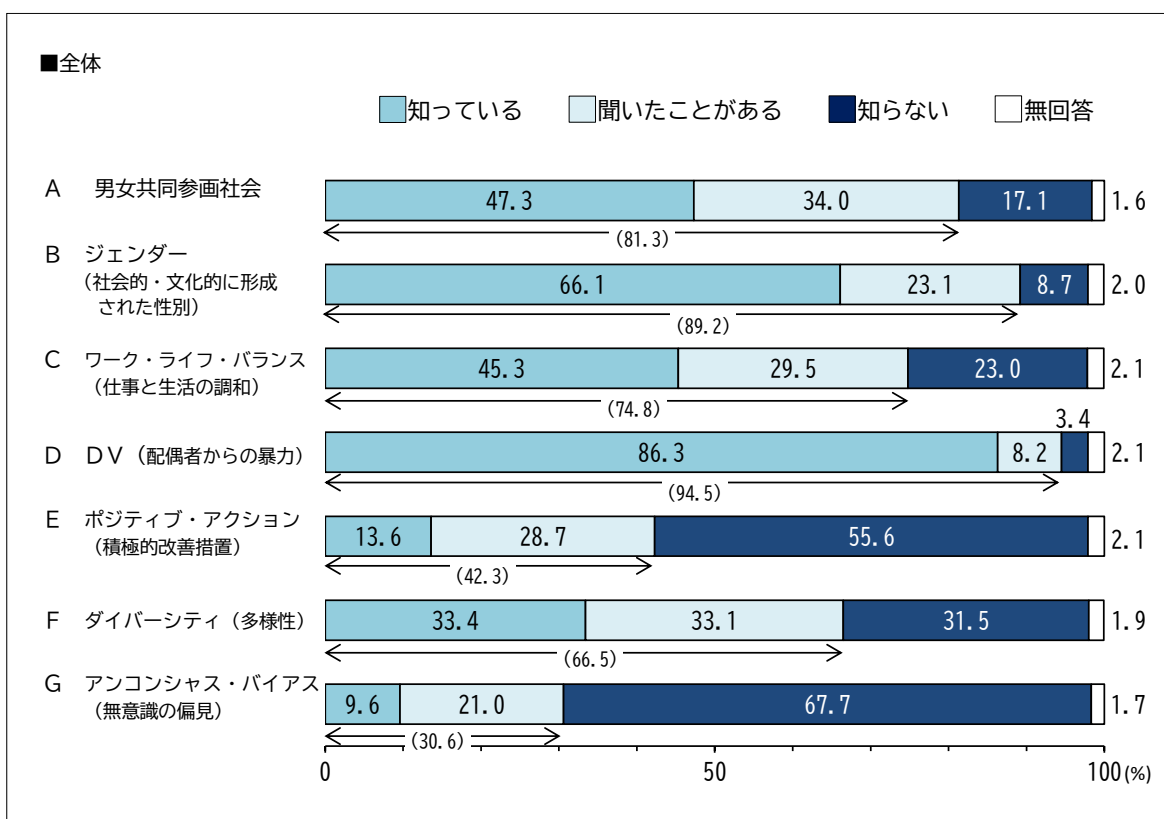
令和4年度全国調査 : 「男女共同参画社会に関する世論調査(令和4年11月調査)」(内閣府)

## 用語や制度の認知度について

問1 あなたは、次の言葉やことについて、ご存知ですか。あるいは、聞いたことがありますか。A～Gそれぞれにつき、該当する番号に○を付けてください。

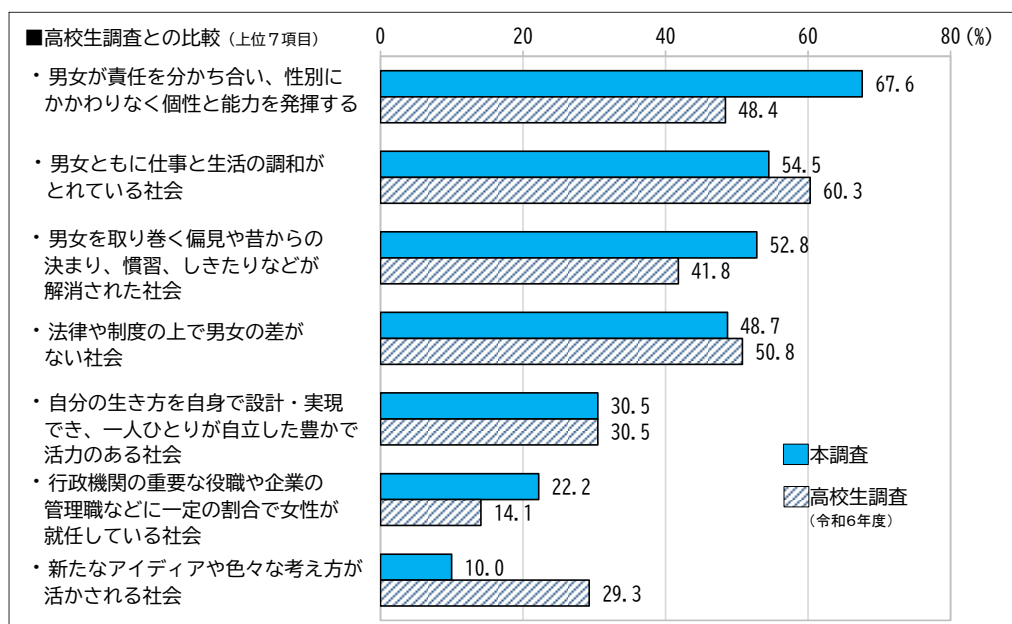
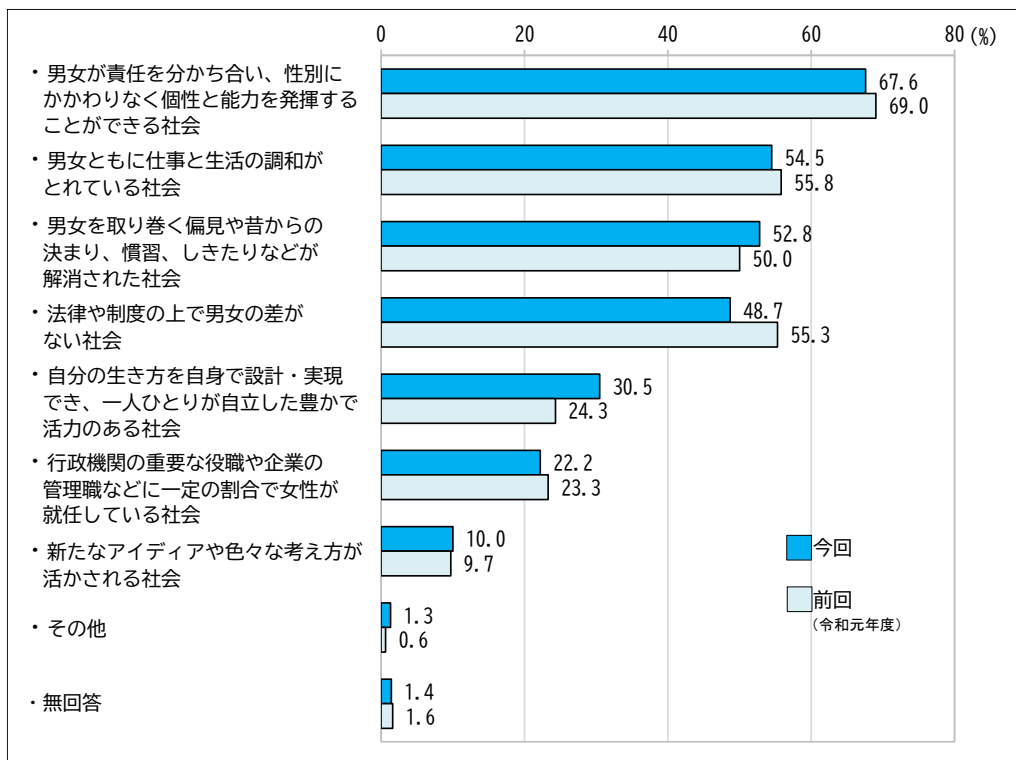
●「知っている」または「聞いたことがある」割合は、「DV」が最も高く94.5%。以下高い順に「ジェンダー」が89.2%、「男女共同参画社会」が81.3%、「ワーク・ライフ・バランス」74.8%、「ダイバーシティ」が66.5%、「ポジティブ・アクション」が42.3%、「アンコンシャス・バイアス」が30.6%となっている。

●過去の調査と比べると、「ジェンダー」が前回調査から20.9ポイント増加している。



問2 あなたが考える「男女共同参画社会」は、どのような社会ですか。次の中から、あなたのお考えに近いものを、3つまで選んでください。

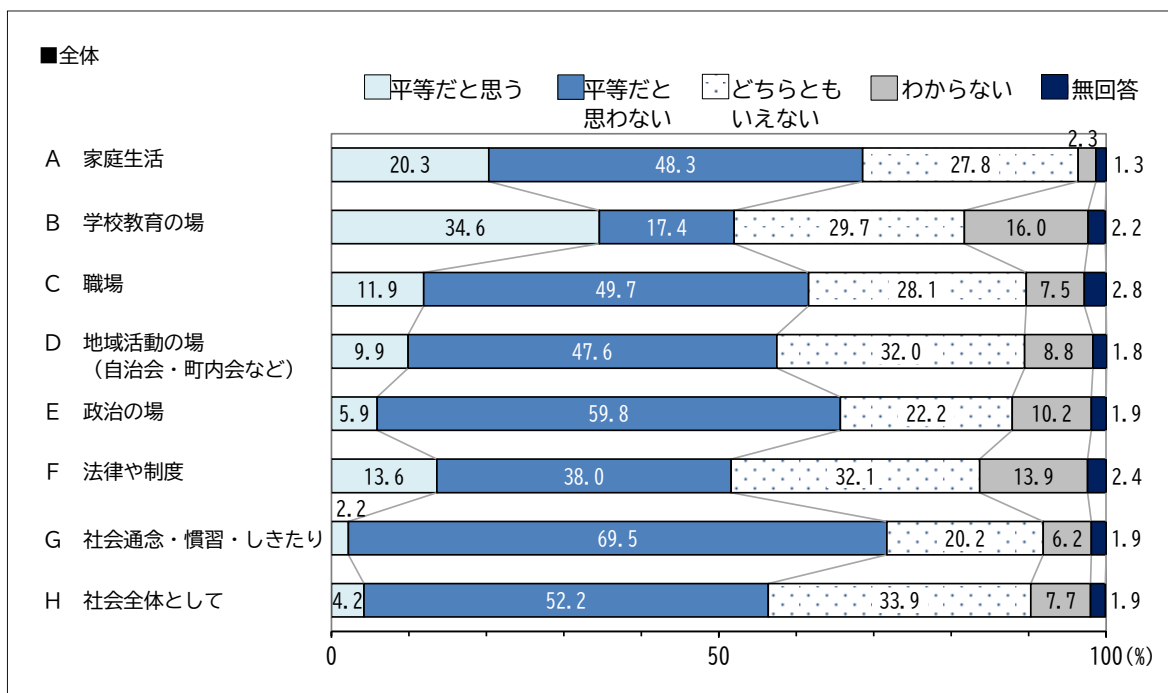
- 「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会」が67.6%で最も多かった。2番目は「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」の54.5%で、以下「男女を取り巻く偏見や昔からの決まり、慣習、しきたりなどが解消された社会」が52.8%、「法律や制度の上で男女の差がない社会」が48.7%と続く。
- 性別では、女性は「男女を取り巻く偏見や昔からの決まり、慣習、しきたりなどが解消された社会」が男性より7.1ポイント、男性は「法律や制度の上で男女の差がない社会」が女性より10.9ポイント高い。



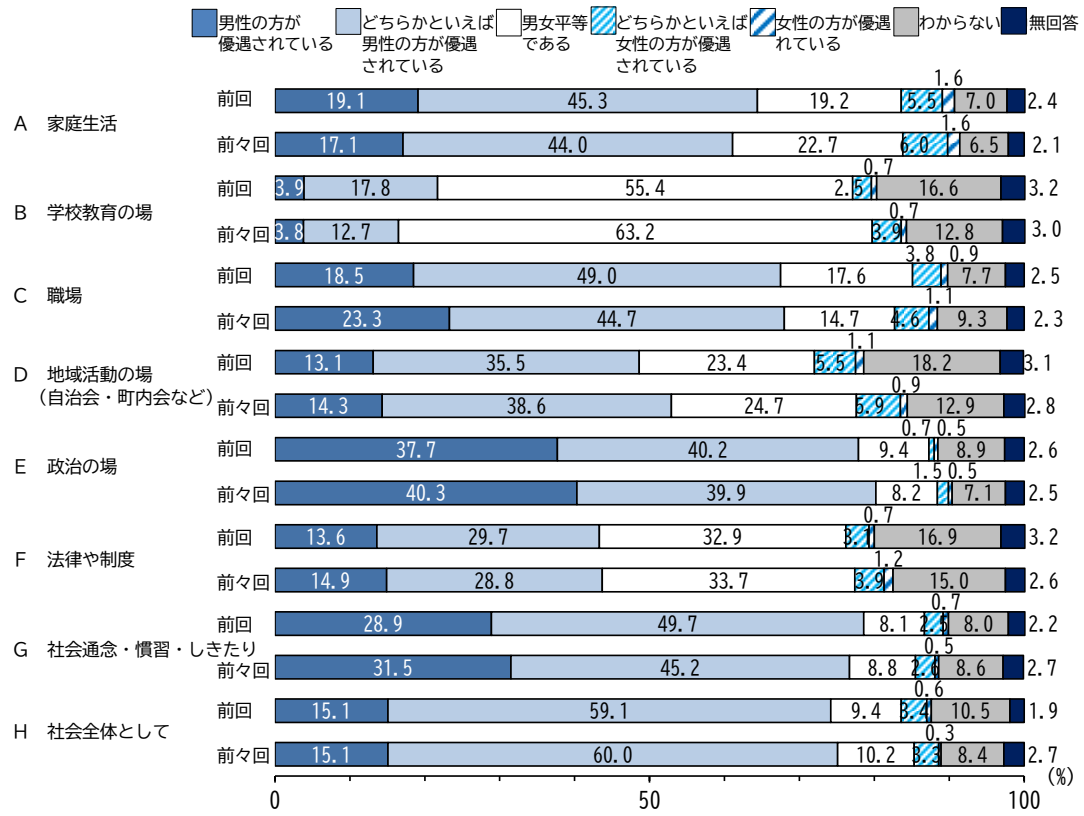
## 世の中の男女平等について

問3 あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
A～Hそれぞれにつき、あなたのお考えに近いと思う番号に○を付けてください。

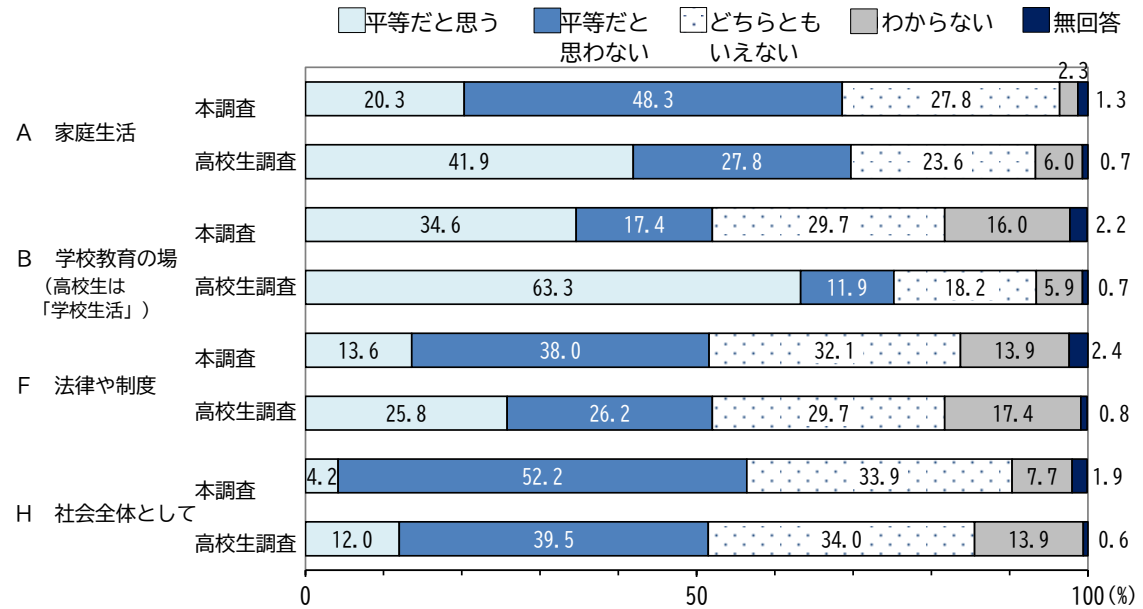
- 「平等だと思う」が最も高かったのは「学校教育の場」の34.6%。以下、高い順に「家庭生活」が20.3%、「法律や制度」が13.6%、「職場」が11.9%、「地域活動の場」が9.9%、「政治の場」が5.9%、「社会全体として」が4.2%、「社会通念・慣習・しきたり」が2.2%となった。
- 令和元年度調査は選択肢が異なるが、「男女平等である」の回答割合が「学校教育の場」で最も高く、「社会通念・慣習・しきたり」で最も低いことは今回と同じ。



【参考】 前回（令和元年度）・前々回（平成26年度）全体



■高校生調査（令和6年度）との比較 全体



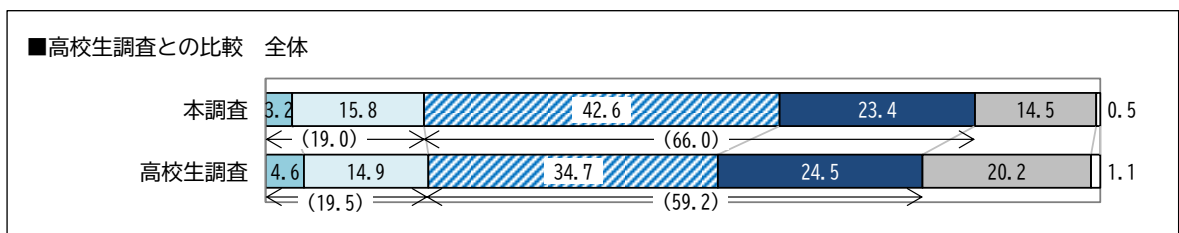
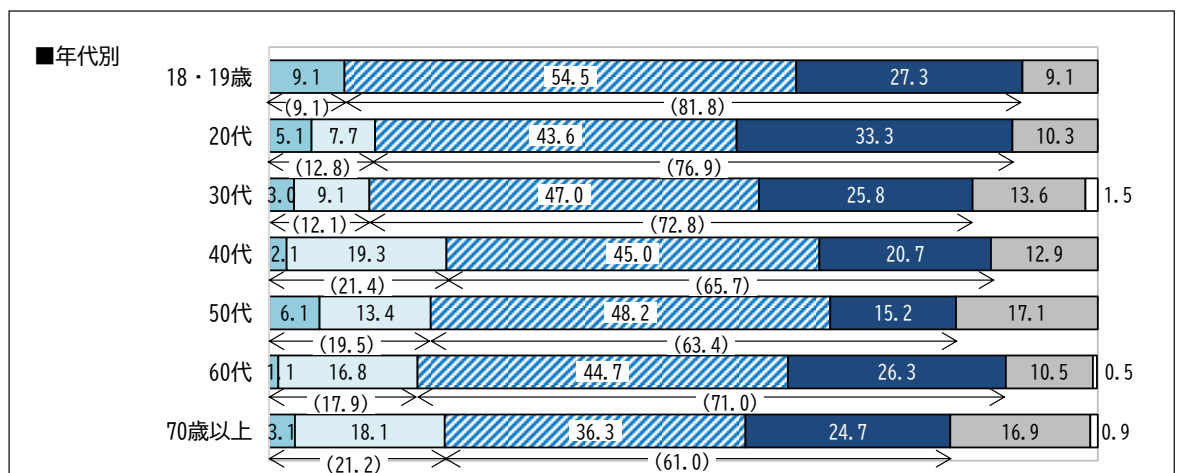
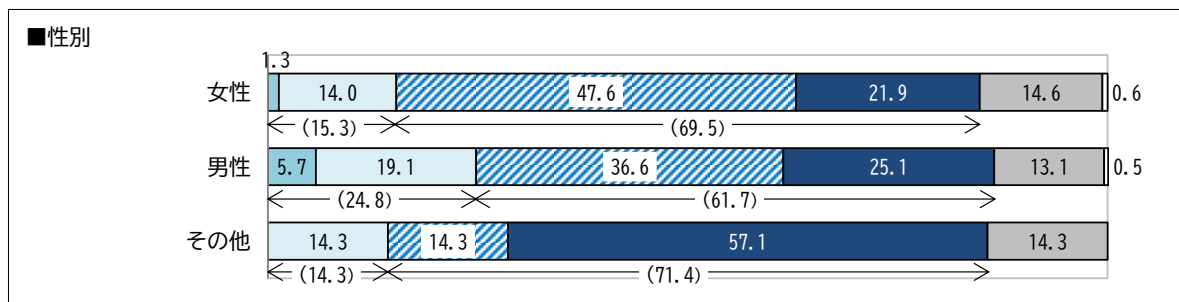
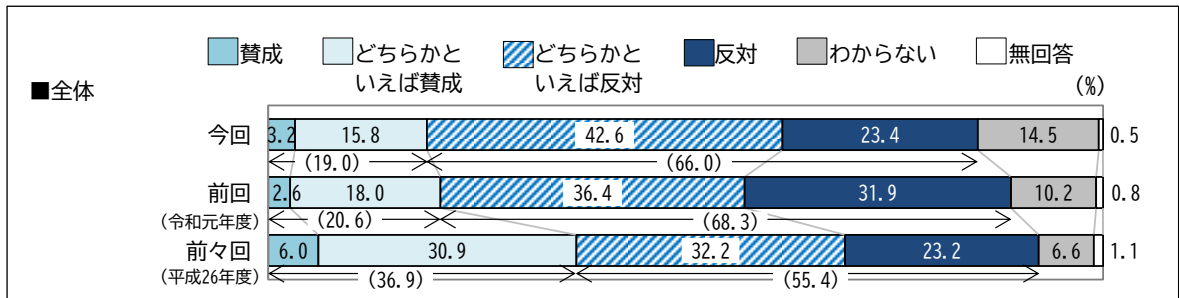
# 固定的性別役割分担意識について

## 問4 あなたは、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。

- 「反対」または「どちらかといえば反対」の回答は66.0%で、「賛成」または「どちらかといえば賛成」は19.0%。（参考：令和元年度調査 68.3%、令和4年度全国調査 64.3%）

注：令和元年度調査の質問文は『男は仕事、女は家庭』という、性別によって役割を固定する考え方について、あなたはどう思いますか。お考えに近いものを1つ選んでください。で、令和4年度全国調査の質問文は『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について、あなたはどうかお考えですか。』

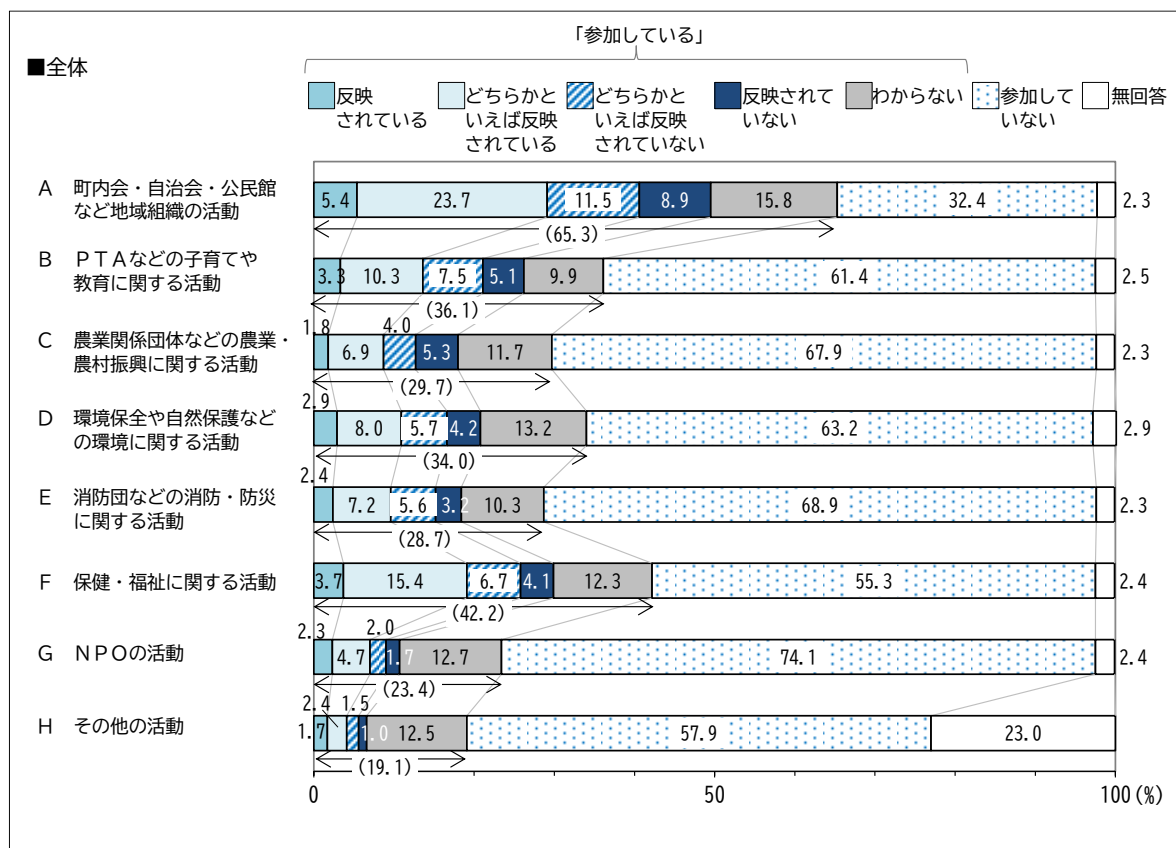
- 女性は「反対」または「どちらかといえば反対」の回答が69.5%で男性より7.8ポイント高い。



## 地域活動参加状況について

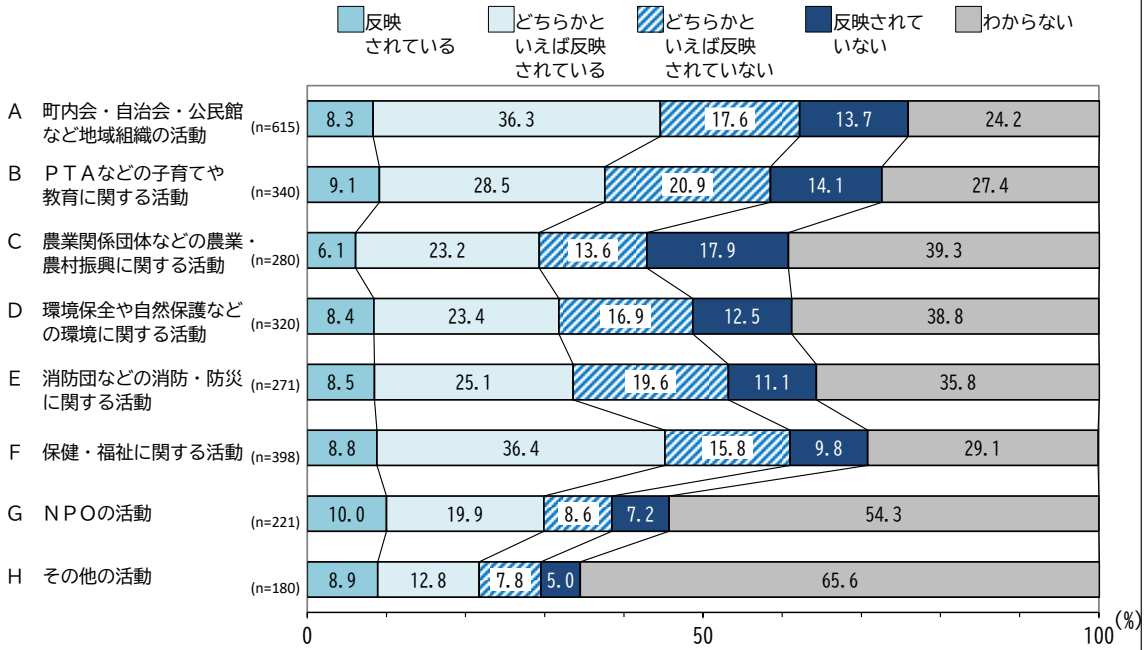
問5 あなたが、現在参加している活動についてお尋ねします。  
あなたが参加している活動において、その活動方針や活動計画にあなた自身の意見は反映されていると思いますか。A～Hそれぞれにつき、該当する番号に○を付けてください。

- 活動に参加している割合（「反映されている」、「どちらかといえば反映されている」、「どちらかといえば反映されていない」、「反映されていない」、「わからない」の合計）が最も高かったのは「町内会・自治会・公民館など地域組織の活動」の65.3%で、「保健・福祉に関する活動」が42.2%、「PTAなどの子育てや教育に関する活動」が36.1%、「環境保全や自然保護などの環境に関する活動」が34.0%と続く。
- 活動に参加していると答えた人のうち、自分の意思が「反映されている」または「どちらかといえば反映されている」と回答した割合をみると、「保健・福祉に関する活動」が45.2%、「町内会・自治会・公民館など地域組織の活動」が44.6%で並ぶ。以下「PTAなどの子育てや教育に関する活動」は37.6%、「消防団などの消防・防災に関する活動」は33.6%、「環境保全や自然保護などの環境に関する活動」は31.8%、「NPOの活動」は29.9%、「農業関係団体などの農業・農村振興に関する活動」は29.3%。

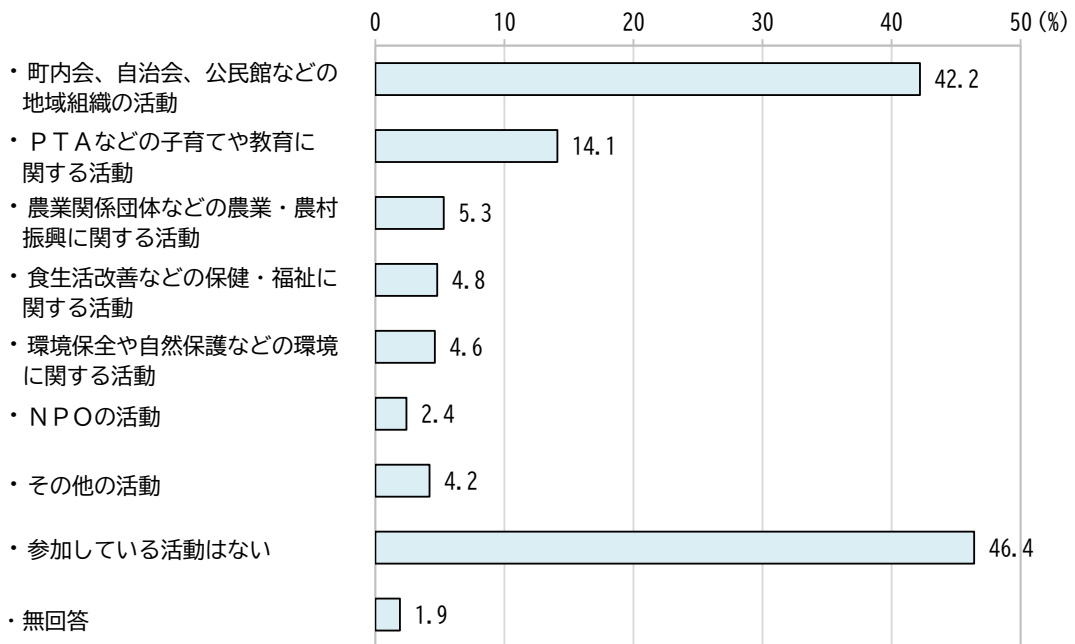




■「参加している」と回答した人の「反映されている～わからない」の割合



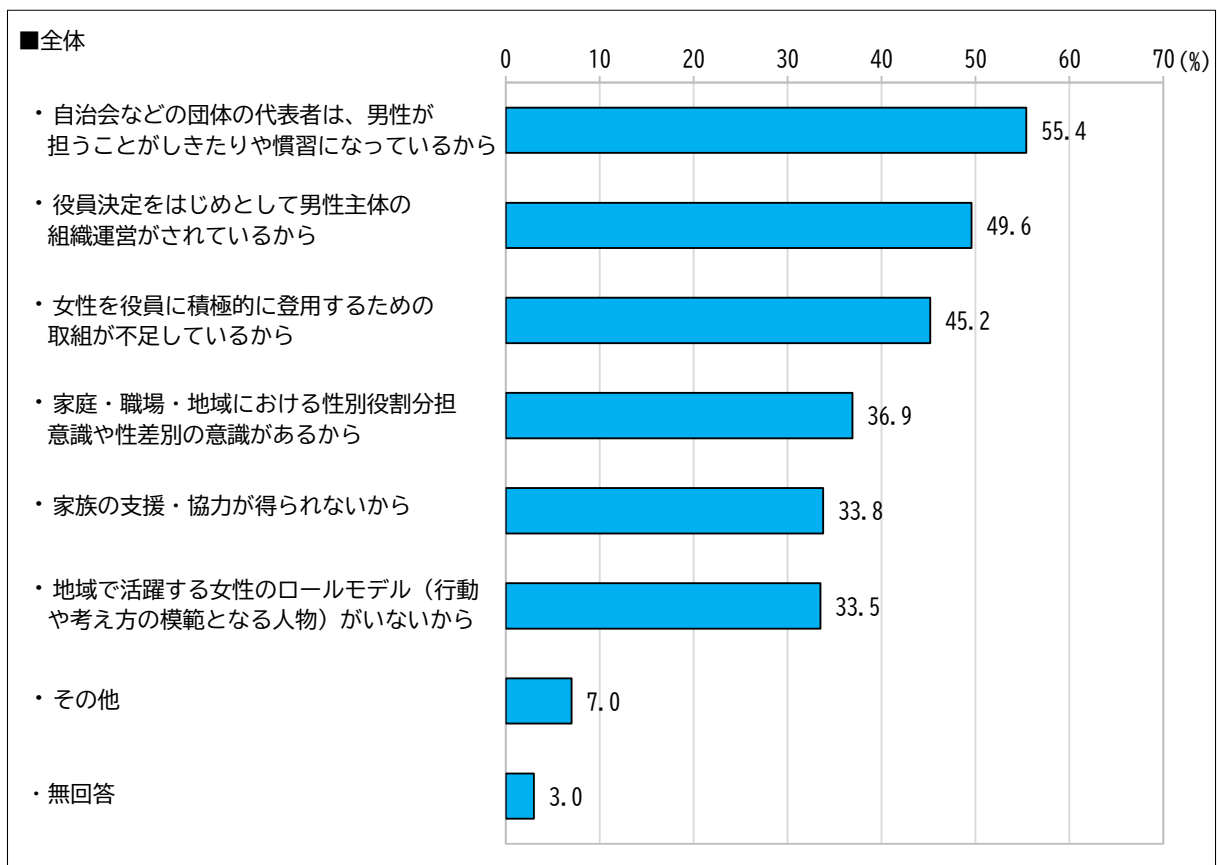
【参考】 次の中から、あなたが参加している活動を全てあげてください。前回調査（令和元年度）

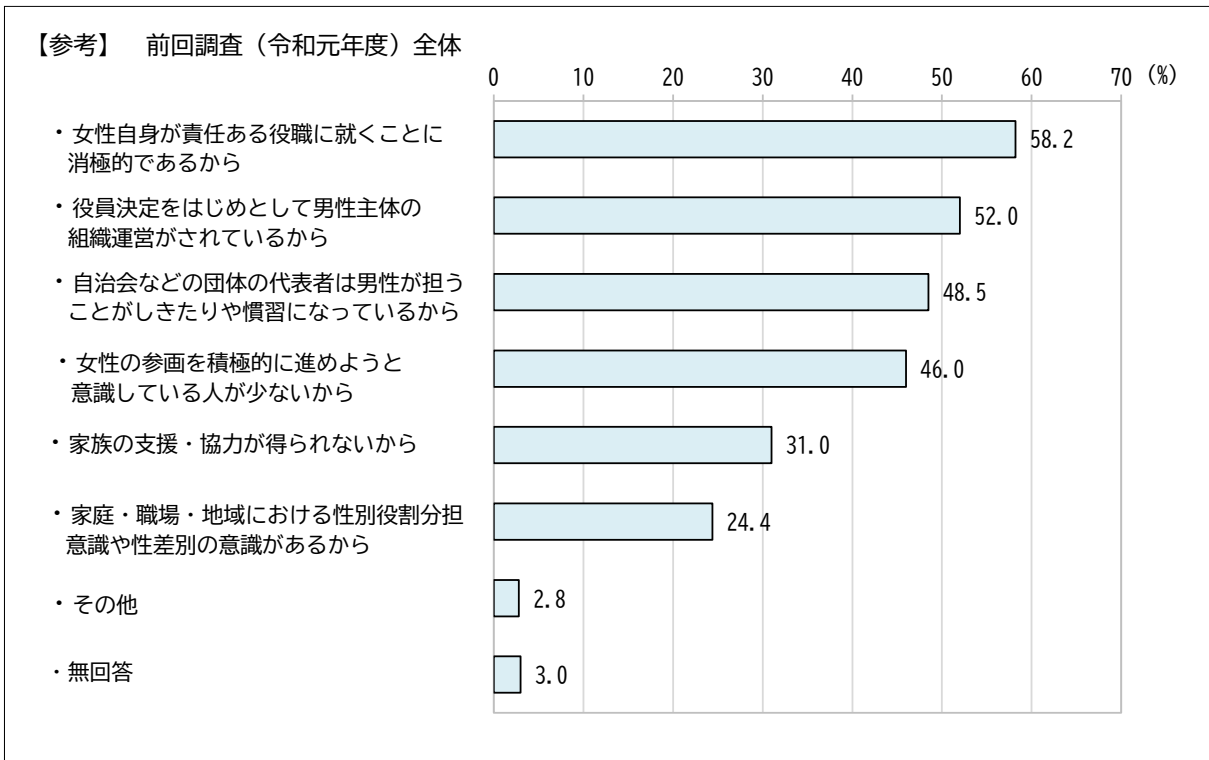
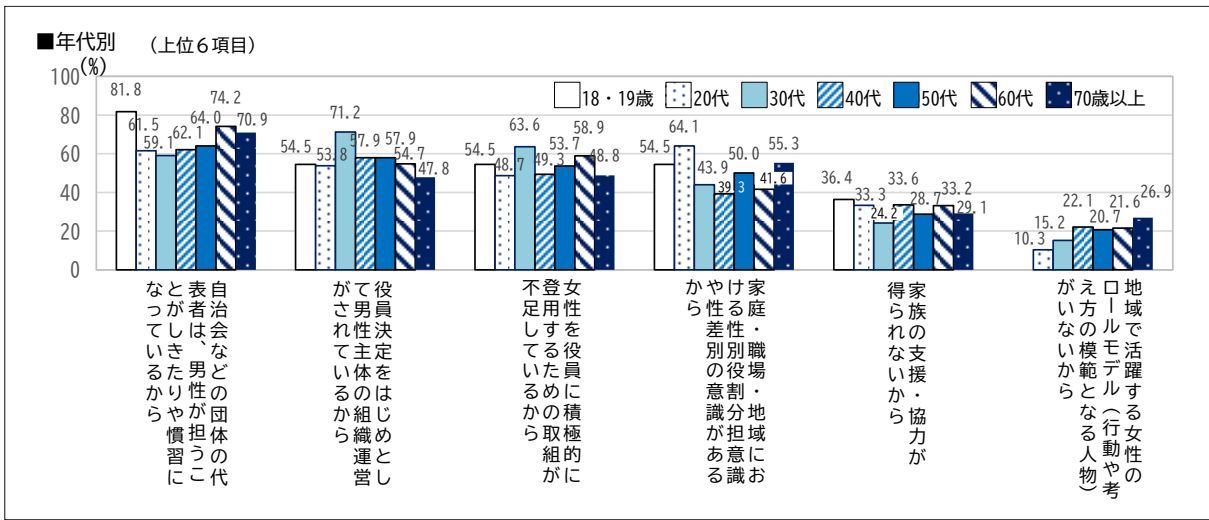
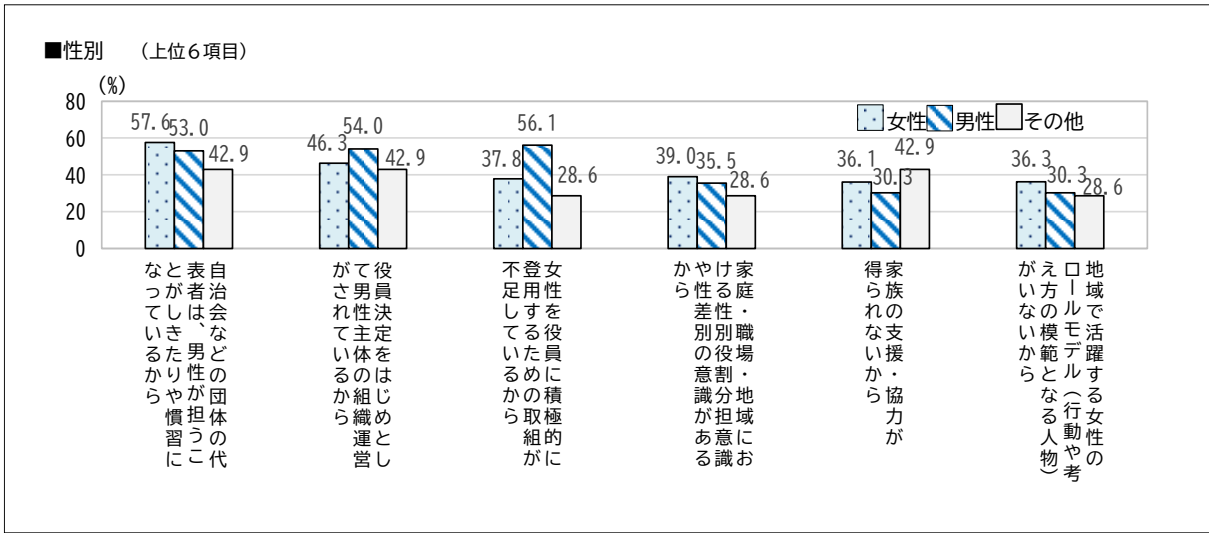


## 政策・方針決定への参画について

問6 女性の社会参画が進みつつありますが、町内会や自治会の長、PTA会長などには、まだ、女性が少ないのが現実です。このような方針決定の過程に、女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。次の中から、あなたのお考えに近いものを3つまで選んでください。

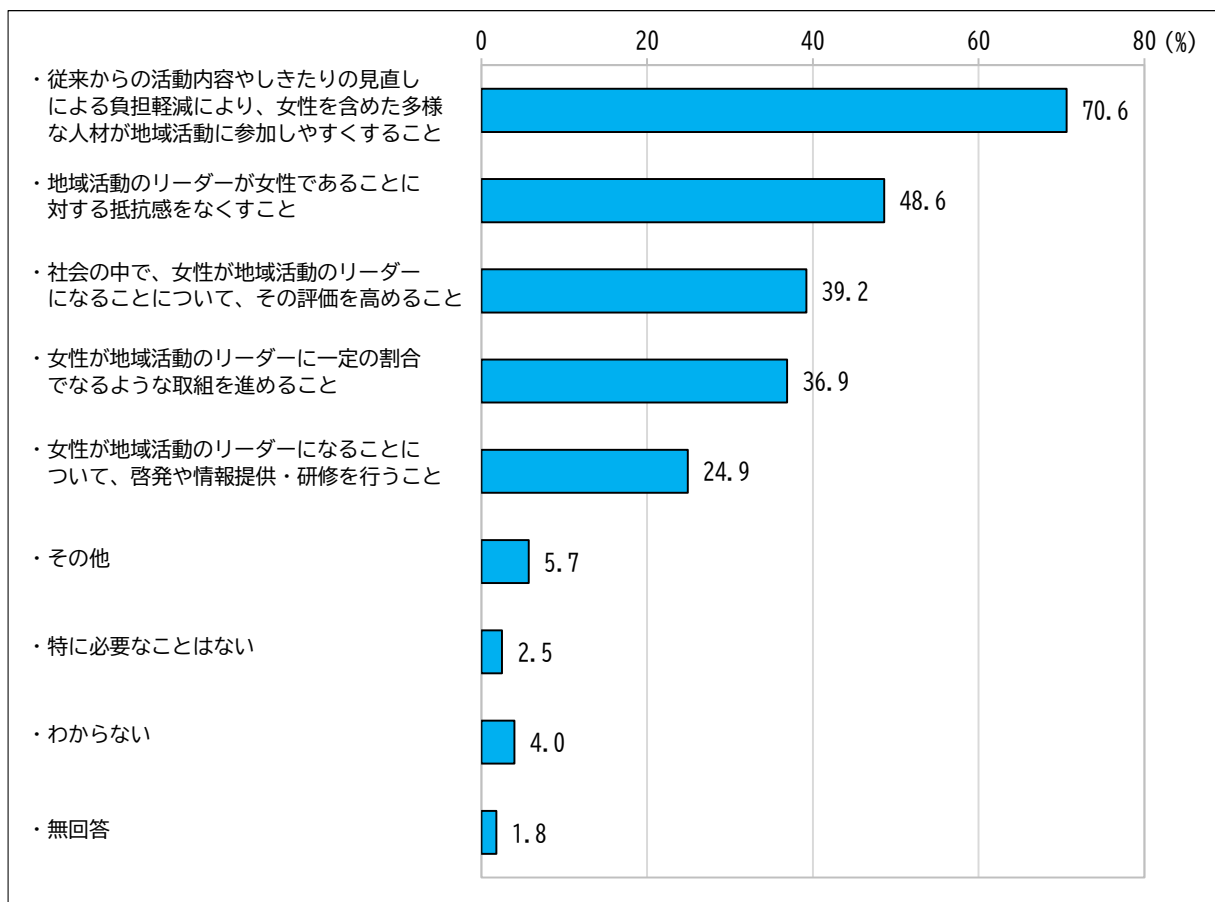
- 最多は「自治会などの団体の代表者は、男性が担うことがしきたりや慣習になっているから」の55.4%で、2番目以降は「役員決定をはじめとして男性主体の組織運営がされているから」が49.6%、「女性を役員に積極的に登用するための取組が不足しているから」が45.2%、「家庭・職場・地域における性別役割分担意識や性差別の意識があるから」が36.9%と続く。
- 男性は「女性を役員に積極的に登用するための取組が不足しているから」を56.1%でトップに挙げ、女性より18.3ポイント高い。

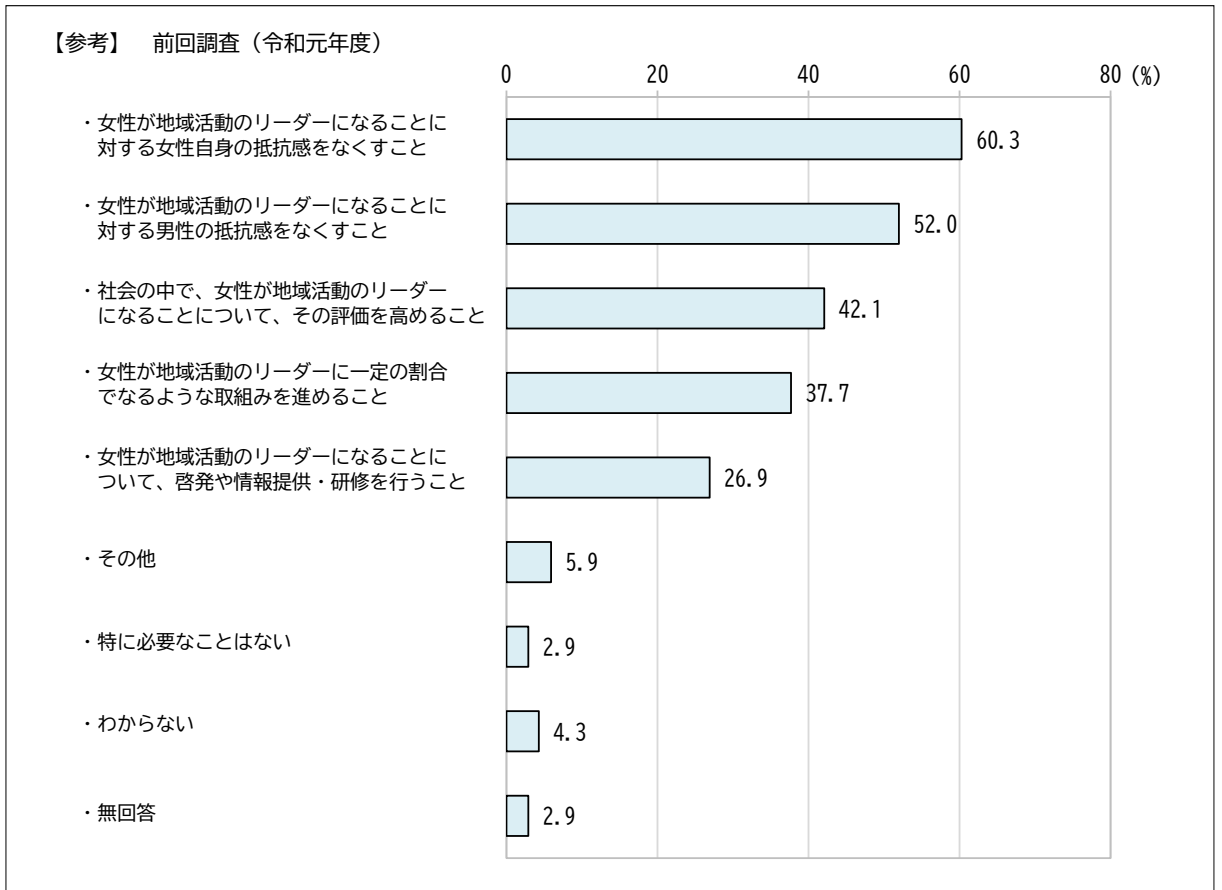
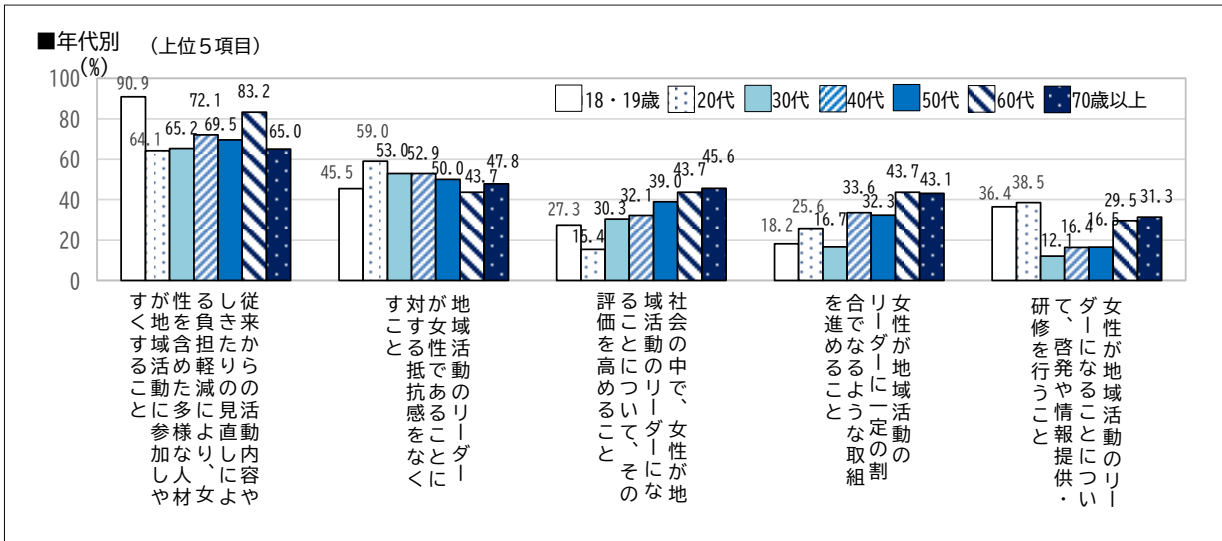
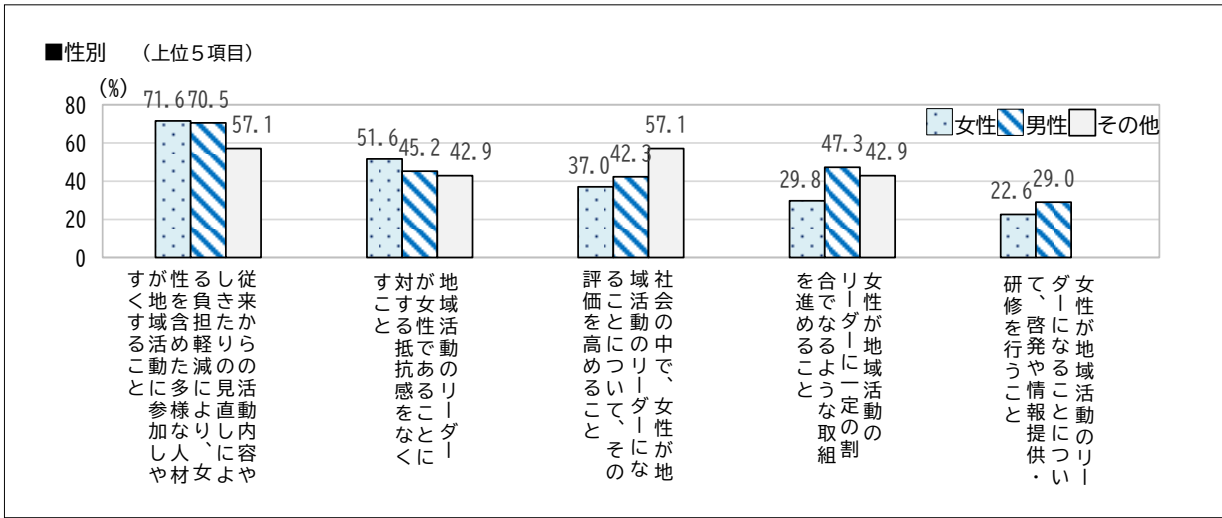




問7 あなたは、自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あなたのお考えに近いものを3つまで選んでください。

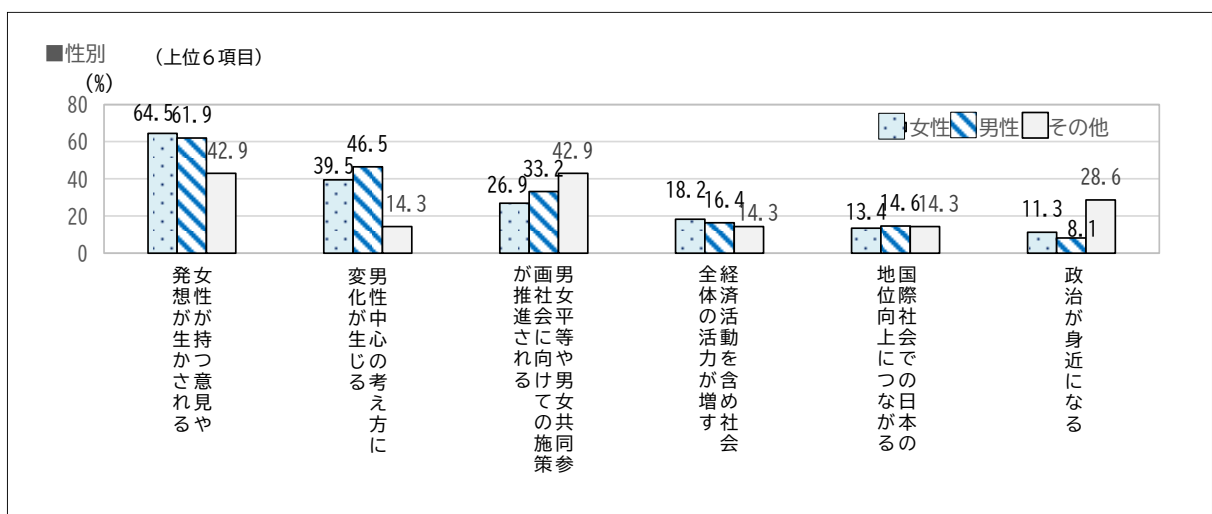
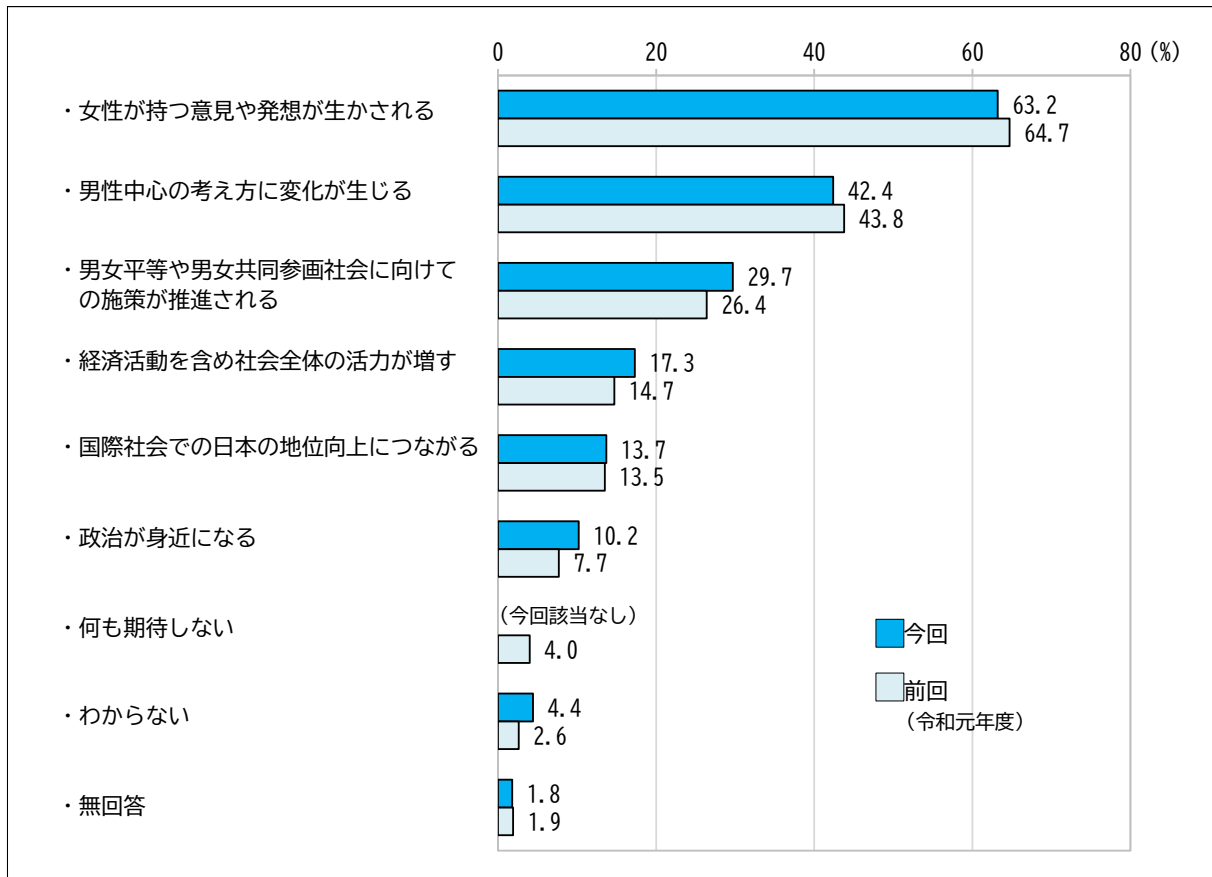
- 「従来からの活動内容やしきたりの見直しによる負担軽減により、女性を含めた多様な人材が地域活動に参加しやすくすること」が70.6%で最多で、「地域活動のリーダーが女性であることに対する抵抗感をなくすこと」が48.6%、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」が39.2%と続く。
- 年代別では、60代は「従来からの活動内容やしきたりの見直しによる負担軽減により、女性を含めた多様な人材が地域活動に参加しやすくすること」が83.2%と高い。





問8 あなたは、政策方針決定の場に女性が増えることについて、何を期待しますか。  
次の中から、あなたのお考えに近いものを2つまで選んでください。

- 「女性が持つ意見や発想が活かされる」が63.2%で最多。2番目は「男性中心の考え方に変化が生じる」の42.4%で、以下「男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される」が29.7%、「経済活動を含め社会全体の活力が増す」が17.3%と続く。
- 男性は「男性中心の考え方に変化が生じる」が46.5%で女性より7.0ポイント高い。
- 令和元年度調査は選択肢の数が異なるが、上位6項目の順番は同じだった。



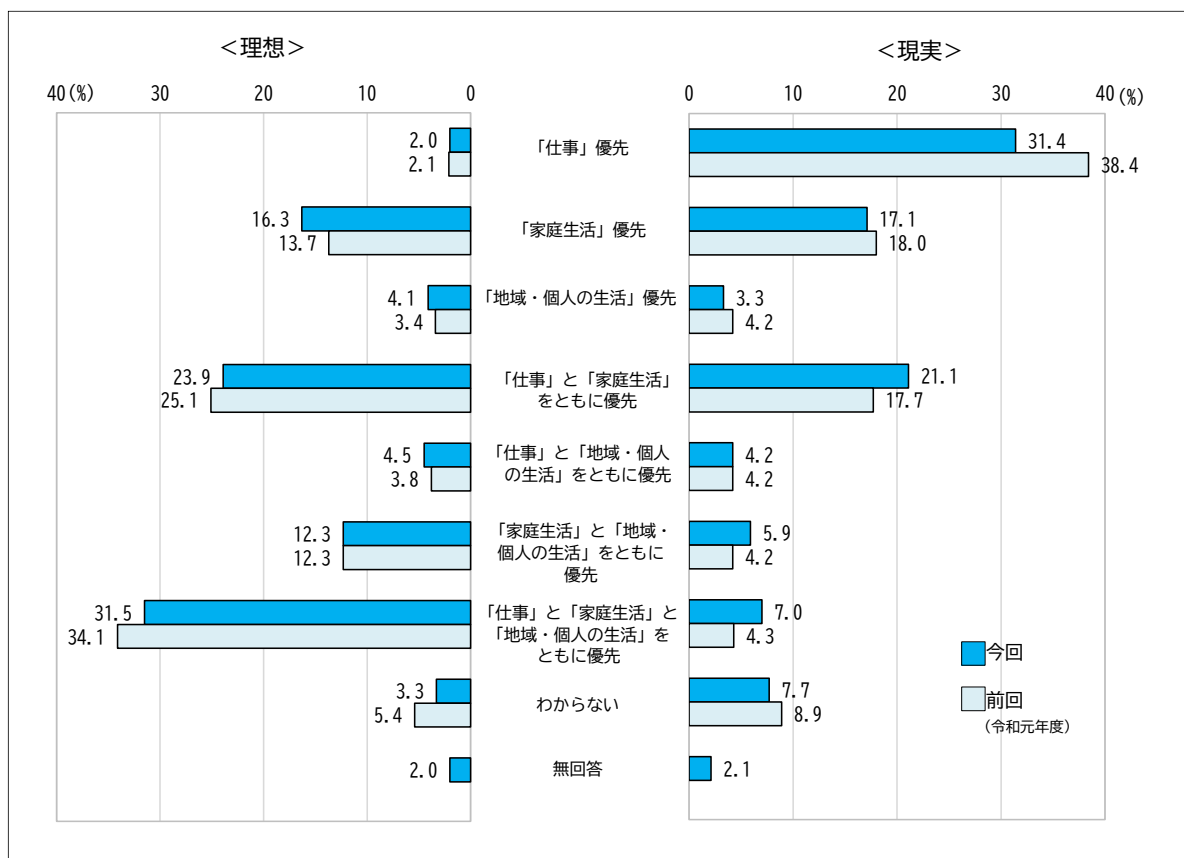
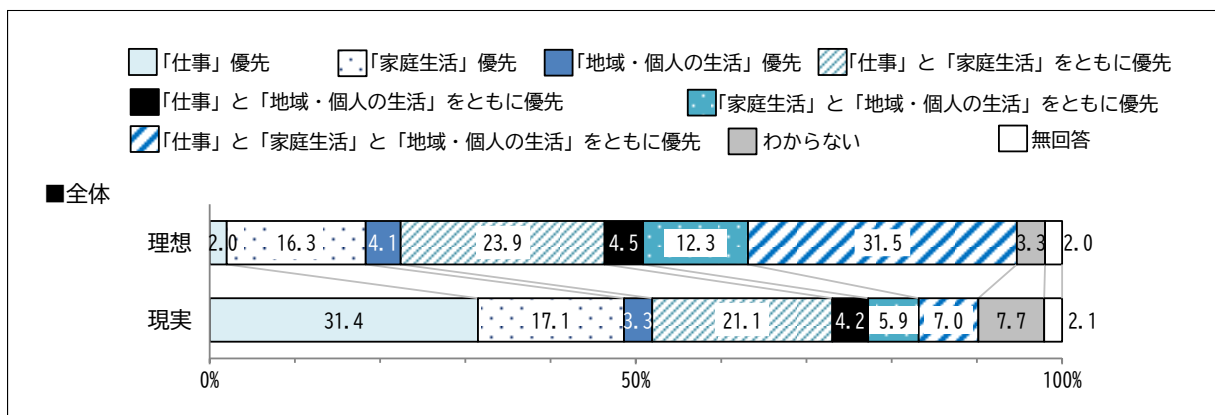
## ワーク・ライフ・バランスについて

問9 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）、この3つの優先度について、お尋ねします。A・Bそれぞれにつき、該当する番号を下の1～8の中から1つずつ選んでください。

A 理想（希望）とする生活か。

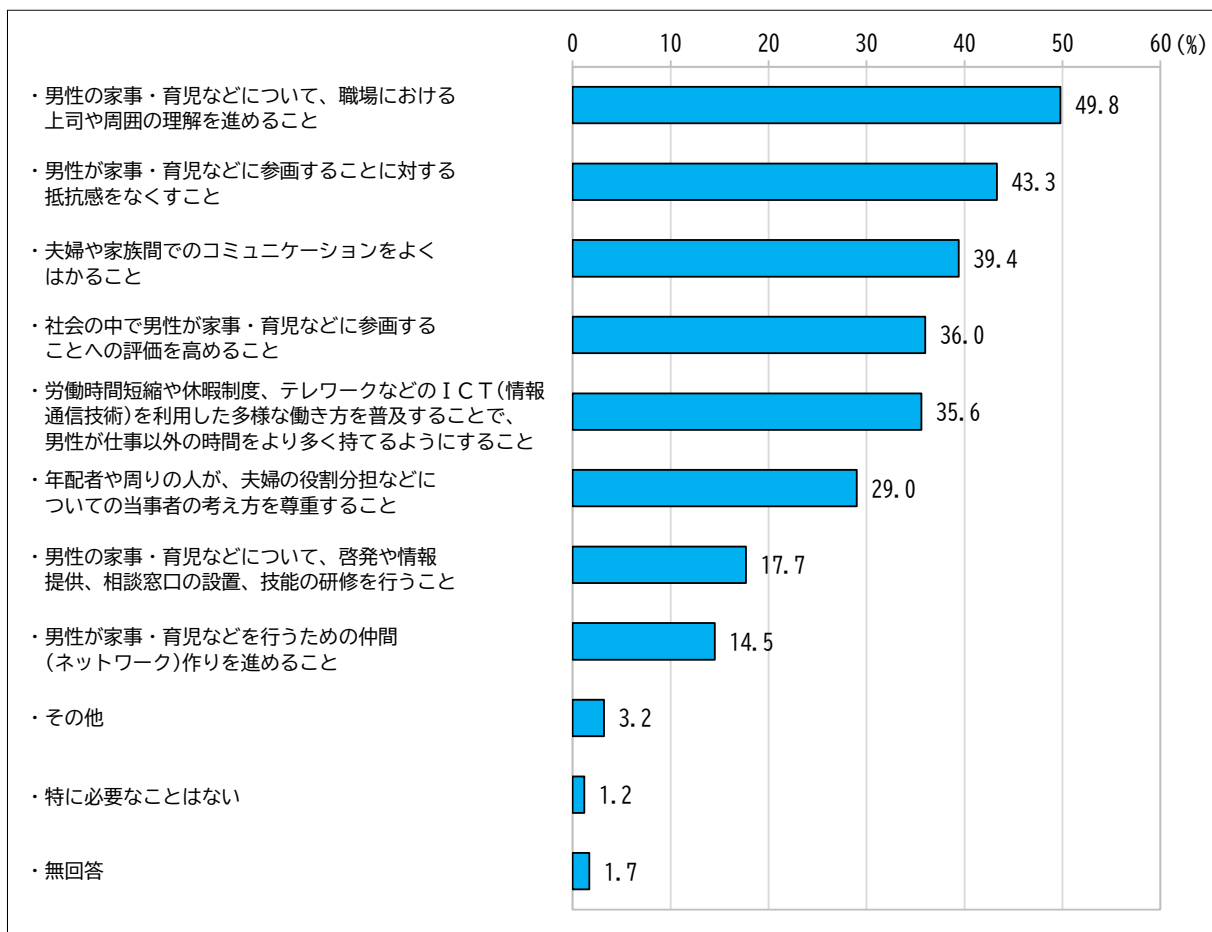
B 現実（現状）の生活

- 理想とする生活で最も多かったのは「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」の31.5%だが、現実には7.0%にとどまる。2番目に多かった「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」を理想と答えたのは23.9%で、現実には21.1%。「『仕事』優先」が理想と答えたのは2.0%で、現実には31.4%だった。
- 令和元年度と比べると、現実が「『仕事』優先」が7.0ポイント減少している。

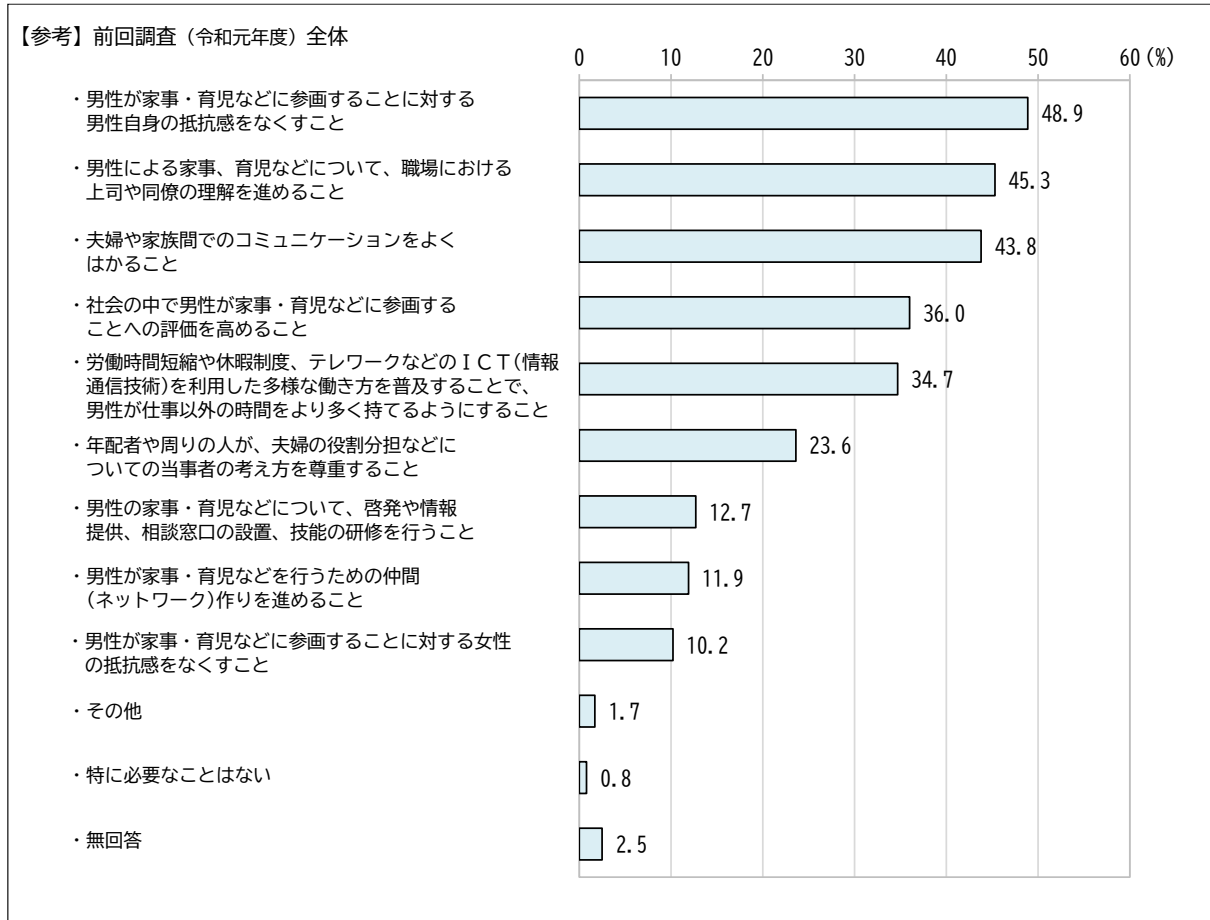
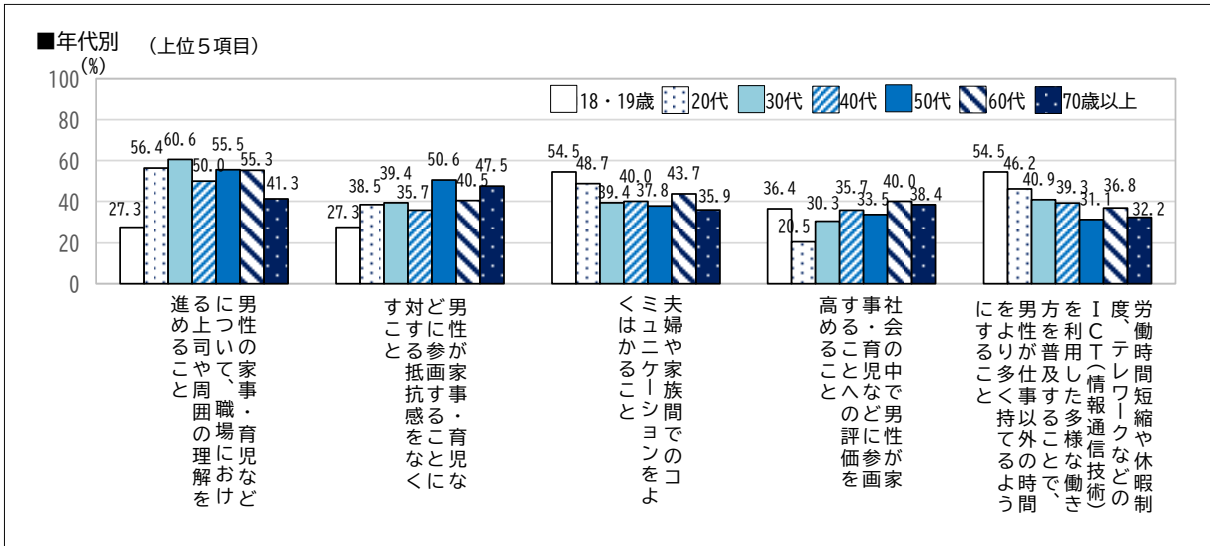


問 10 あなたは、現在、女性が分担する機会が多い家事、子育て、介護等に男性が積極的に参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中からあなたのお考えに近いものを3つまで選んでください。

- 「男性の家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が49.8%で最多。「男性が家事・育児などに参画することに対する抵抗感をなくすこと」が43.3%、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が39.4%、「社会の中で男性が家事・育児などに参画することへの評価を高めること」が36.0%、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT(情報通信技術)を利用した多様な働き方を普及することで、男性が仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が35.6%と続く。
- 30代は「男性の家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が60.6%と高い。



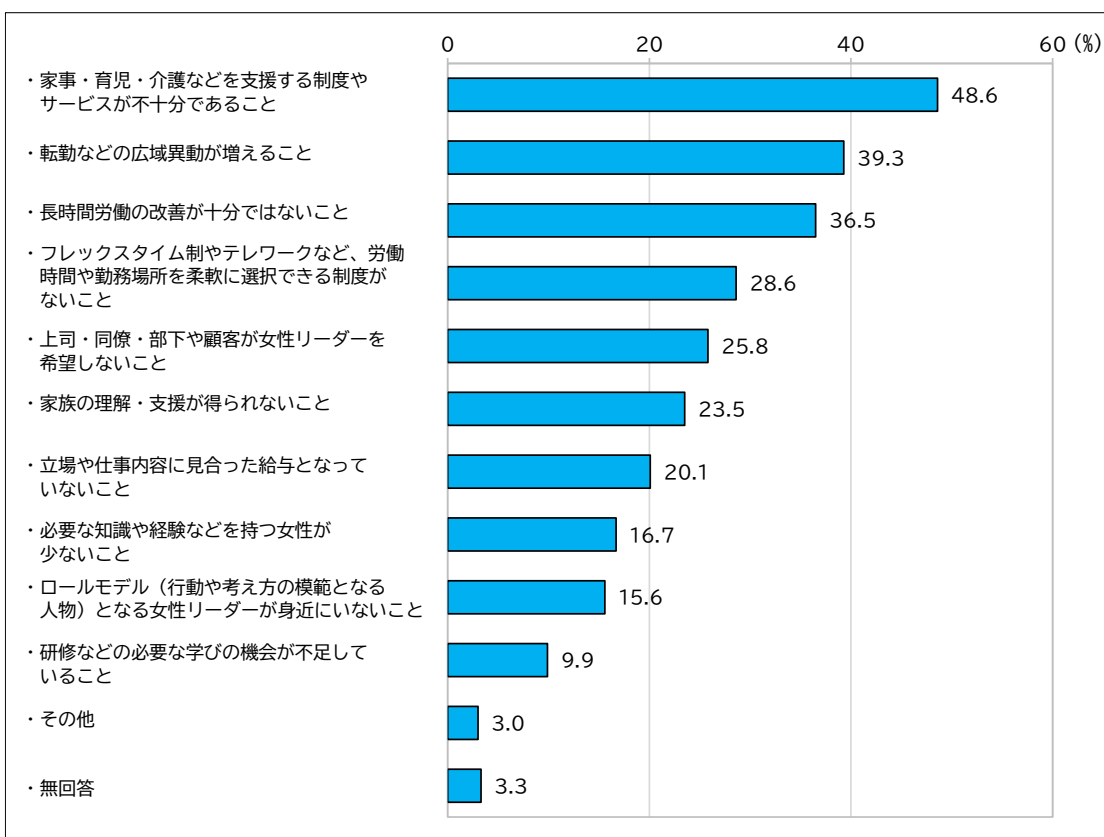


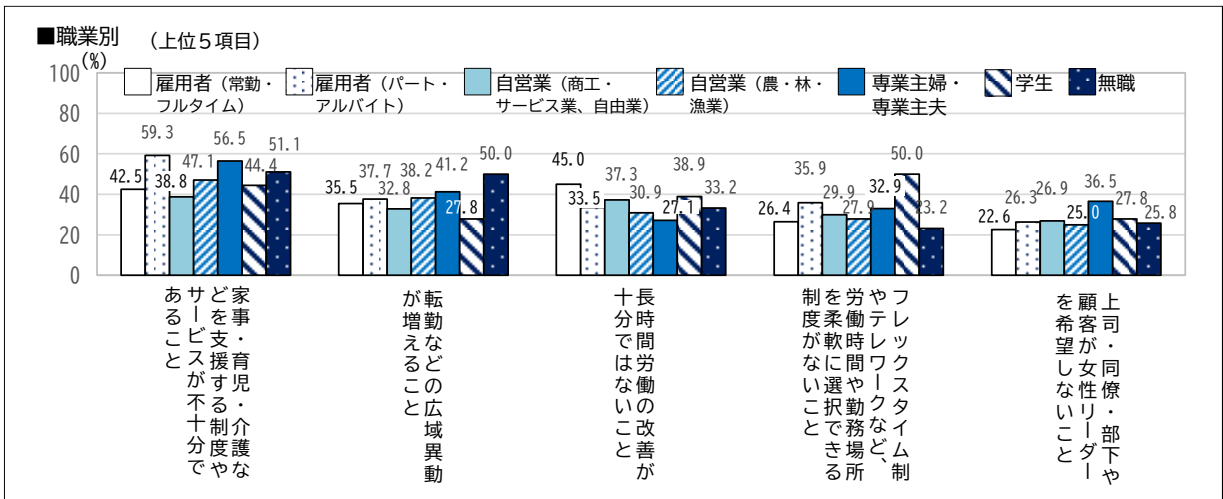
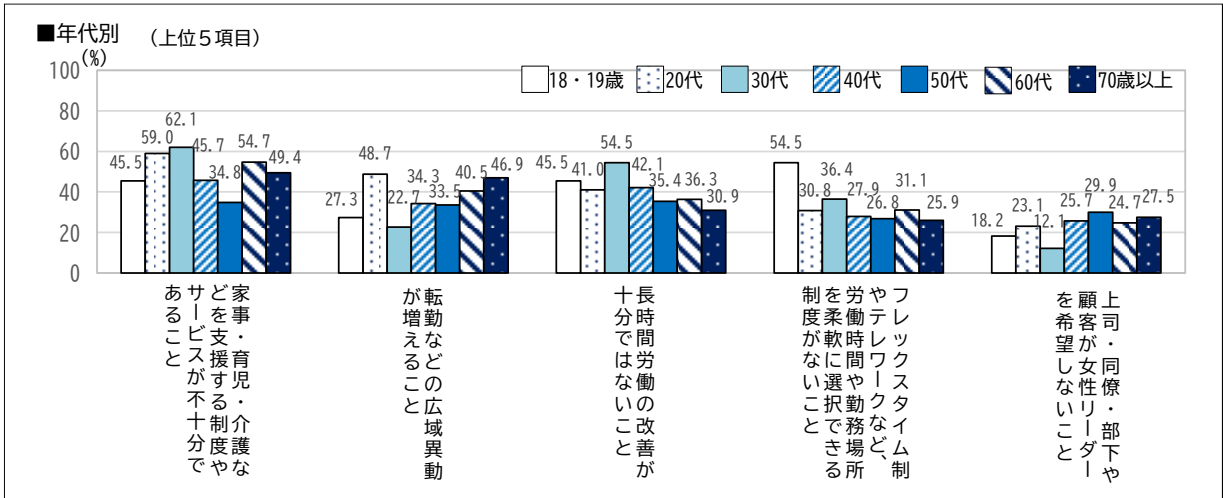
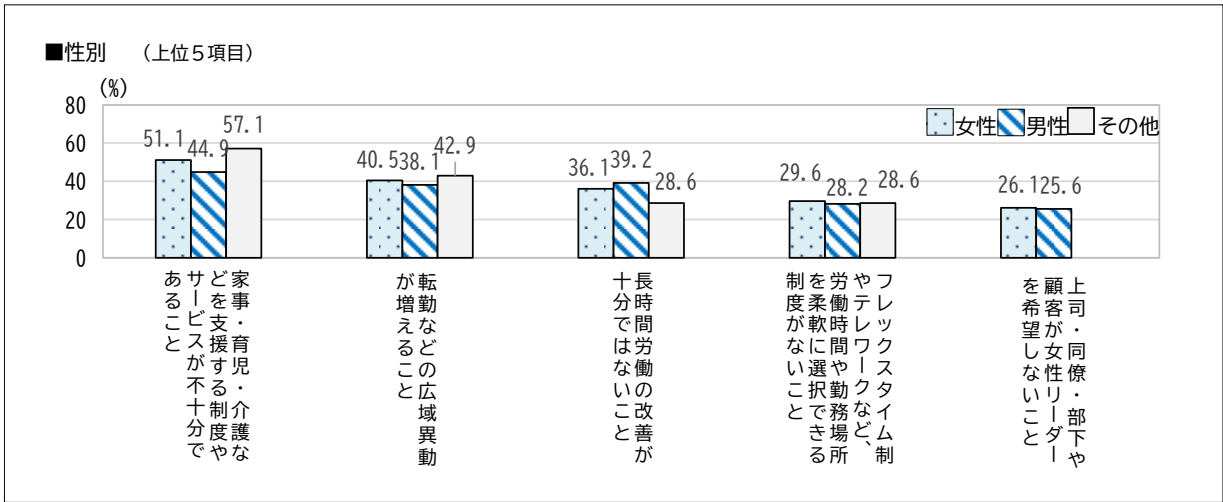


## 女性リーダー（管理職）について

問 11 令和4年の国の調査では、長野県における女性管理職の割合は16.1%と、まだまだ少ないのが現状です。あなたは、職場で女性のリーダー（管理職）を増やすときに障害となるものは何だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

- 最多は「家事・育児・介護などを支援する制度やサービスが不十分であること」の48.6%で、「転勤などの広域異動が増えること」が39.3%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」が36.5%、「フレックスタイム制やテレワークなど、労働時間や勤務場所を柔軟に選択できる制度がないこと」が28.6%と続く。
- 30代は「家事・育児・介護などを支援する制度やサービスが不十分であること」と「長時間労働の改善が十分ではないこと」がそれぞれ62.1%、54.5%と他の年代より高い。

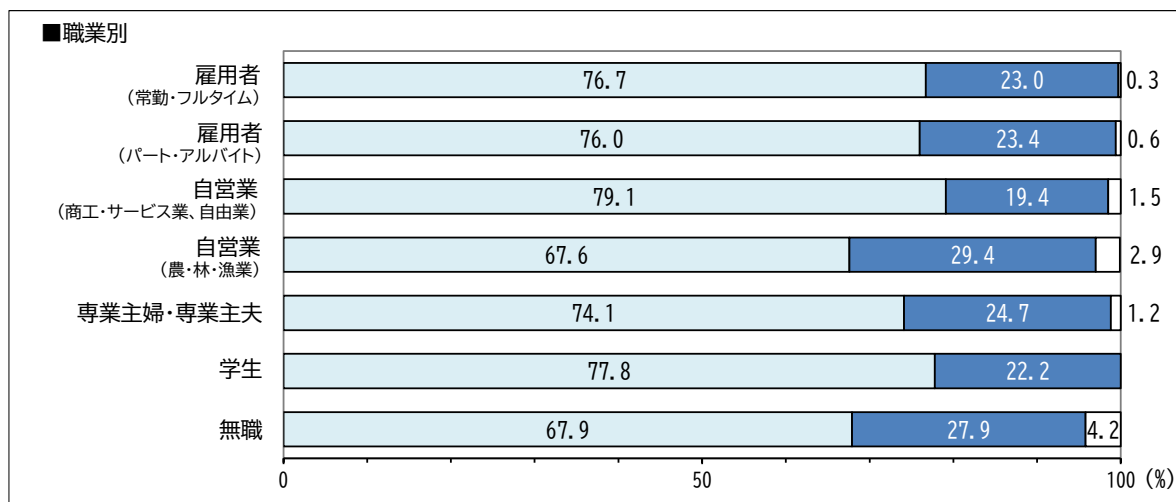
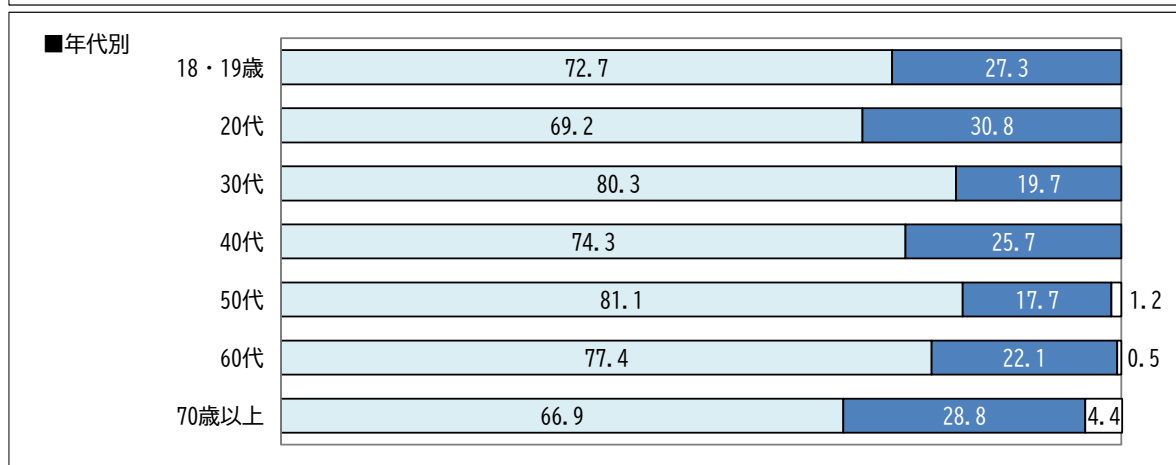
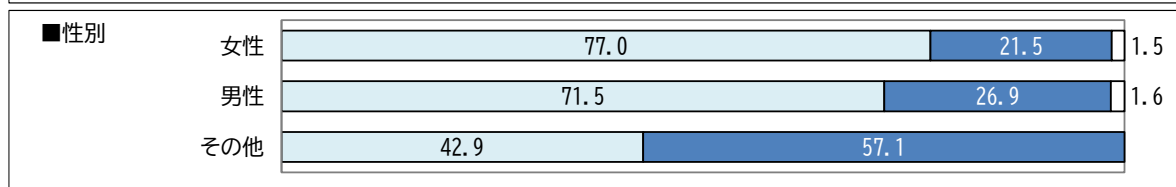
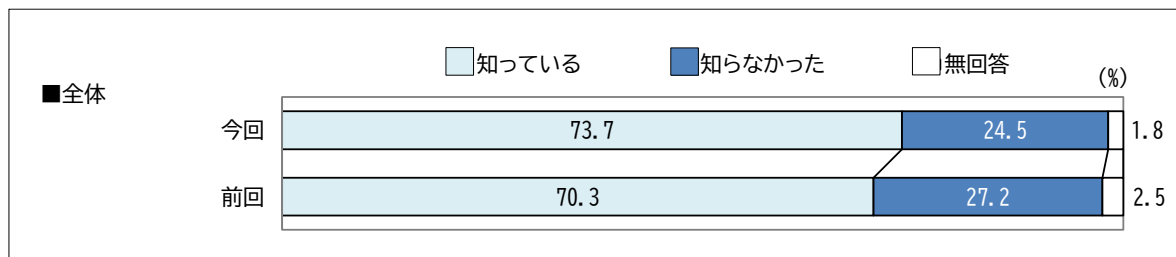




## 男女間の暴力への対策について

問 12 あなたは、配偶者からの暴力について、相談できる窓口があることをご存知ですか。

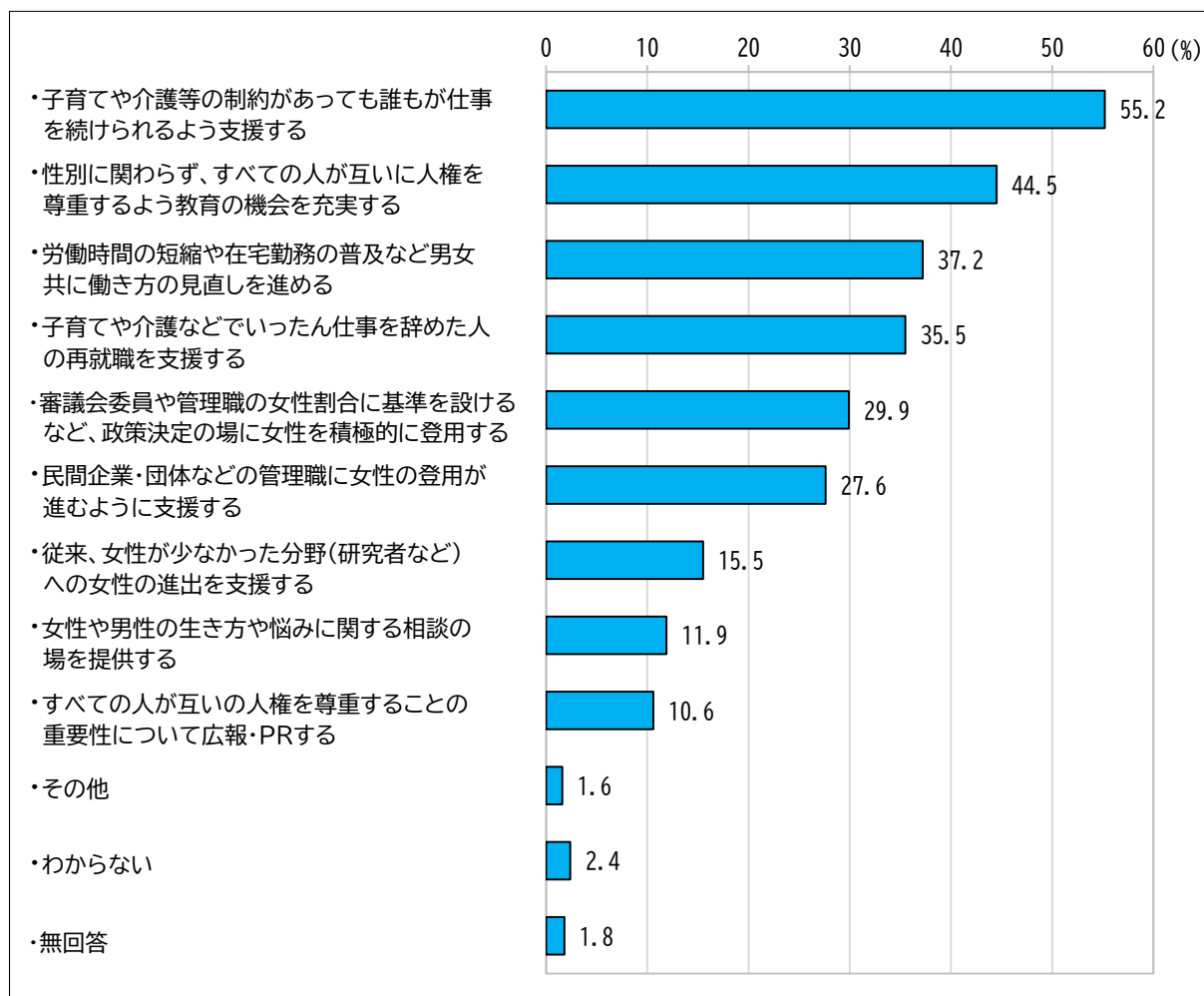
- 「知っている」は73.7%で「知らなかった」は24.5%。令和元年度調査と比べて大きな変動はない。
- 女性は「知っている」が77.0%で男性より5.5ポイント高い。
- 50代と30代は「知っている」が8割を超える。20代は「知らなかった」が30.8%と高め。

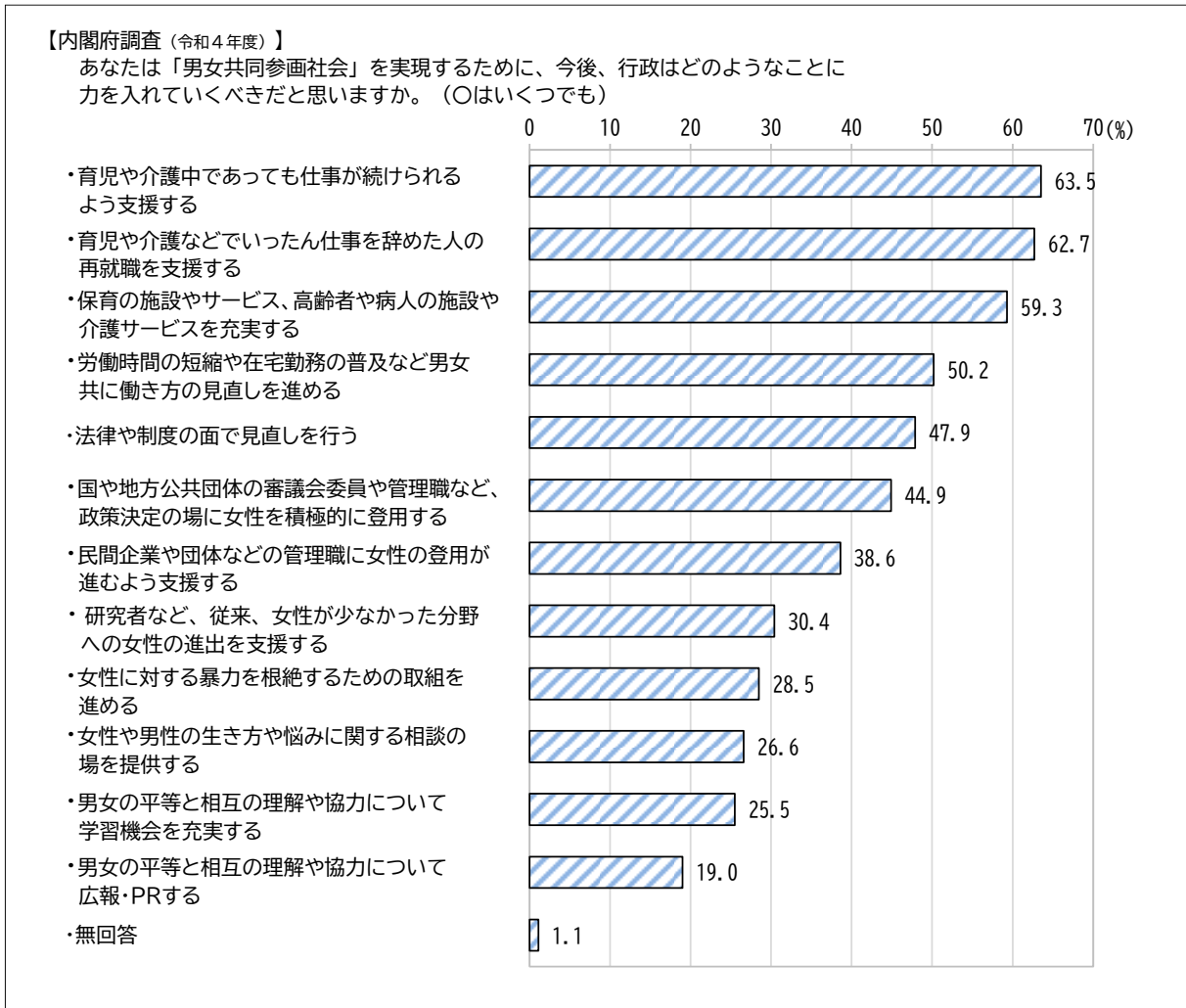
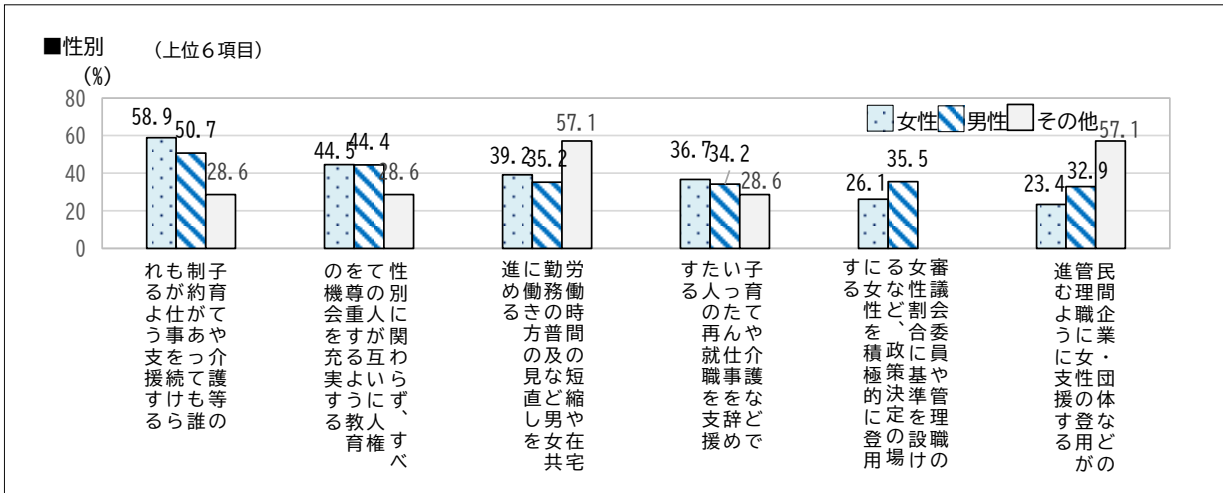


## 男女共同参画社会の実現について

問 13 「男女共同参画社会」を実現するために、県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から、あなたが、特に重要だと思うことを3つまで選んでください。

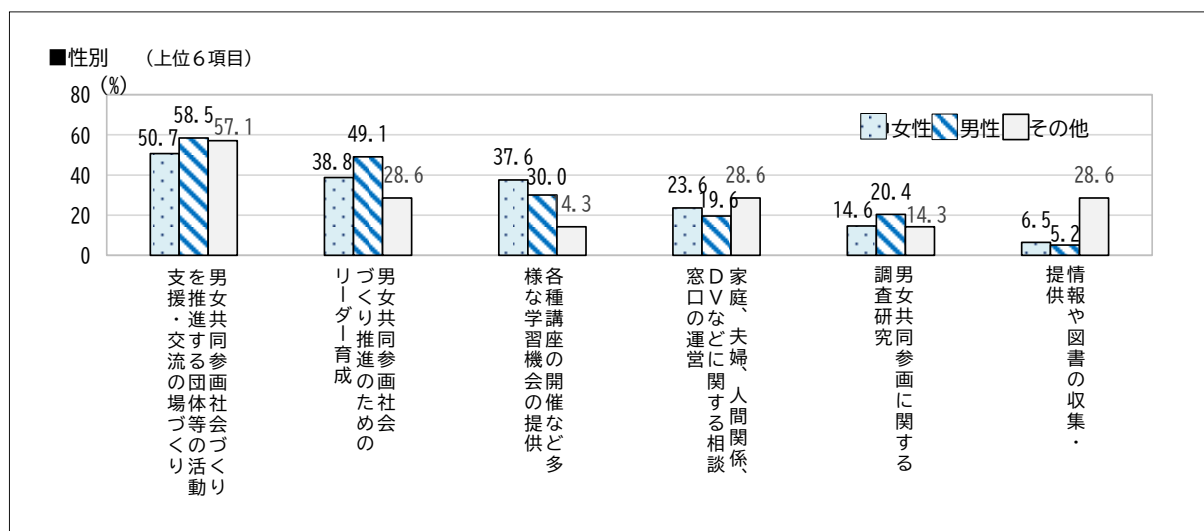
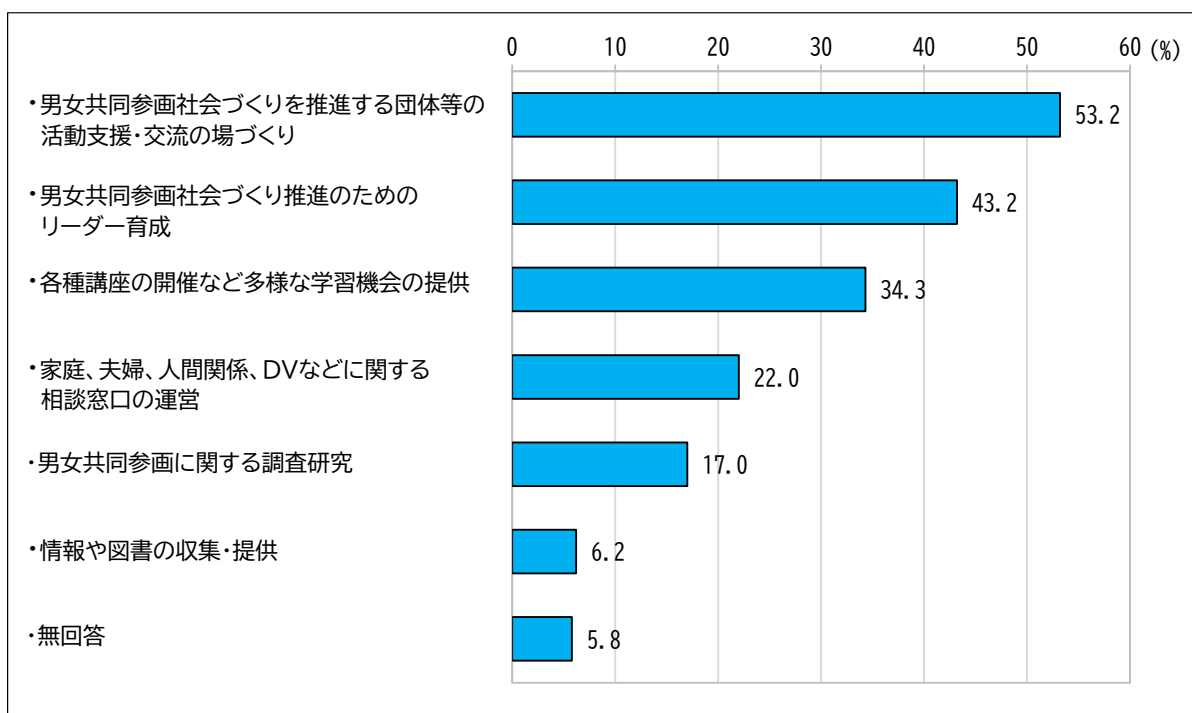
- 最多は「子育てや介護等の制約があっても誰もが仕事を続けられるよう支援する」の55.2%。2番目以降は「性別に関わらず、すべての人が互いに人権を尊重するよう教育の機会を充実する」が44.5%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」が37.2%、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が35.5%と続く。
- 女性は「子育てや介護等の制約があっても誰もが仕事を続けられるよう支援する」が男性より8.2ポイント、男性は「審議会委員や管理職の女性割合に基準を設けるなど、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が女性より9.4ポイント高い。
- 令和元年度調査と比べて大きな変動はない。
- 令和4年度全国調査は選択肢が異なるため本調査と比較できないが、「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が63.5%で最も多く、「育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が62.7%、「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が59.3%となっている。





問 14 あなたが、「男女共同参画社会づくり」のための県の事業として、今後、特に拡充すべきだと思うものはどれですか。次の中から、2つまで選んでください。

- 「男女共同参画社会づくりを推進する団体等の活動支援・交流の場づくり」が53.2%で最も多く、2番目は「男女共同参画社会づくり推進のためのリーダー育成」の43.2%。以下「各種講座の開催など多様な学習機会の提供」が34.3%、「家庭、夫婦、人間関係、DVなどに関する相談窓口の運営」が22.0%、「男女共同参画に関する調査研究」が17.0%、「情報や図書の収集・提供」が6.2%となっている。
- 男性は「男女共同参画社会づくり推進のためのリーダー育成」と「男女共同参画社会づくりを推進する団体等の活動支援・交流の場づくり」が女性よりそれぞれ10.3ポイント、7.8ポイント高い。一方女性は「各種講座の開催など多様な学習機会の提供」と「家庭、夫婦、人間関係、DVなどに関する相談窓口の運営」が男性より高い。



男女共同参画に関する県民意識調査報告書  
(ダイジェスト版)  
令和6年12月

発行 長野県県民文化部 人権・男女共同参画課

住所 〒380-8570

長野市大字南長野字幅下692-2

電話 (直通) 026-235-7102

(代表) 026-232-0111

メール [jinken-danjo@pref.nagano.lg.jp](mailto:jinken-danjo@pref.nagano.lg.jp)